

## 平成 30 年度第 2 回総合教育会議 会議録

1. 日時	平成 31 年 2 月 21 日 (木) (午後 1 時 35 分から)
1. 場所	市来庁舎 2 階庁議室
1. 出席者	田畑誠一市長  富永伸博委員・徳重涼子委員・福山 希委員 有村孝教育長 木下総務課長・書記 川越総務課長補佐
1. 協議事項	・平成 31 年度施政方針について  ・冠岳小学校の統廃合について
木下課長	只今から平成 30 年度第 2 回総合教育会議を開催します。 市長あいさつをお願いします。
田畑市長	皆さん、こんにちは。平成 30 年度も、残すところ 1 月余りとなってまいりました。 この 1 年、有村教育長を中心に、教育委員の皆様方には本市教育行政全般に目配り、気配りを賜りましたことに、まずもって感謝申し上げます。 さて、平成 27 年度から開催しております総合教育会議につきましては、本年度は、9 月に第 1 回目を開催し、本日は 2 回目の開催となります。 9 月の第 1 回目の会では、「特認校生の通学に係る費用の一部負担について」協議し、共通理解させていただいたところであります。 本日の協議内容といたしましては、「(1) 平成 31 年度施政方針について」と「(2) 冠岳小学校の統廃合について」の 2 件であります。平成 31 年度の本市の施政方針につきましては、市長として取りまとめを行い、去る 2 月 18 日、予算(案)とあわせて記者発表いたしましたところであります。 また、冠岳小学校につきましては、来年度の児童数が急激に減少することが見込まれ、今後、学校の統廃合の検討が必要になってくると考えております。 本日は、この 2 件につきまして、教育委員会の皆様と共通理解をしておき必要性を感じましたことから、開催する運びとなりましたので、よろしくをお願いします。

木下課長

協議に入ります。協議の進行を市長にお願いいたします。

田畑市長

それでは、会次第にしたがって会議を進めて参ります。

協議に入りますが、まず、「平成 31 年度施政方針について」を議題といたします。私から説明させていただきます。

(資料「平成 31 年度当初予算(案)の要点」により説明)

平成 31 年度一般会計当初予算 172 億 8,700 万円

- ・前年度に比較し、14 億 3,700 万円、9.1%増
- ・平成 17 年の市町村合併以後、過去最大の予算額
- ・学校給食センター建替事業、防災センター建設事業等の普通建設事業費の増が主要因

平成 31 年度一般会計当初予算の姿

歳入、歳出それぞれの主な増減について

平成 31 年度の主な重点事業

少子化対策・子育て支援及び教育環境の充実

- ・3～5 歳児に対する保育・幼児教育無償化の実施  
国(H31.10 から開始)に先駆け、本市では H30 年度から市単独事業として 3～5 歳児の第 2 子について無償化を実施
- ・公立小学校への空調設備整備  
H31 年度当初予算で串木野小学校及び市来小学校の空調設備整備費を計上。その他の小学校は、本年度 3 月補正予算で計上  
全小学校事業費 2 億 5,342 万円
- ・学校給食センター建設事業  
串木野学校給食センターと市来学校給食センターを統合した新給食センターの建設  
H29 年度から事業実施、H31 年度建設、H32 年度供用開始

安心・安全なまちづくり

- ・災害対策本部機能を持つ防災センター及び防災備蓄倉庫を整備

食のまち、観光交流の推進及び地場産業の振興

- ・串木野新港の利用促進を図るため、クルーズ船を誘致
- ・ワイン、ビール、焼酎をテーマにした「WBS フェスティバル」を開催
- ・いちき串木野ファンの構築、食材・特産品 PR のため、城山ホテル鹿児島で「いちき串木野ふるさとの夕べ」を実施

木下課長

その他

- ・無料職業紹介所設置推進事業
- ・市来エネルギーセンター解体事業
- ・南九州高校総体開催経費
- ・鹿児島国民体育大会・全国障害者スポーツ大会準備経費

皆さんからご質問はありませんか。

なければ、次に「冠岳小学校の統廃合について」を議題とします。

冠岳小学校の状況について、事務局から説明させます。

冠岳小学校の現状については、定例教育委員会でもご説明したところですが、確認ということで、再度、ご説明いたします。

平成31年度の特認校の申込み状況ですが、冠岳小の児童数は、地元が3名、特認校生が3名、合計6名となる見込みです。また、児童数の減に伴い、複式学級が2学級となり、職員の数も、教頭が担任することとなり、教諭1人、教頭、校長、養護教諭の計4人となります。

なお、今後の入学児童の見込みについては、住民基本台帳上は5歳児に1人いますが、地元に向ったところ、実際には住んでいないという状況にあるようです。

このような状況から、冠岳小学校については、学校統廃合の適否を検討する基準に該当する、と考えています。

基準に該当することになると、統廃合計画を作成し、校区内の意向を把握しながら慎重に進めるとされていることから、統廃合の適否の判断時期は毎年4月となっていますが、子どもたちの状況を見ると、4月までにこの状況が変わることはない判断し、地域への説明などの対応は、早めの対応に努めているところです。

これまでの対応としては、11月末の特認校生の申込み状況から、平成31年の児童数、学級編成、教職員の配置見込が出た段階で、校長から12月の校内人事異動の説明で教職員に伝えるとともに、学校運営協議会が開かれ、そこで運営委員の皆さんに状況の説明がなされています。また、12月定例教育委員会で状況報告し、議会全員協議会にも報告しているところです。

その後、1月に開かれた冠岳まちづくり協議会の役員会で、冠岳小学校の状況について説明を行ったところです。

また、1月30日に冠岳小学校PTAの方々から、冠岳小学校の学級減に伴う担任確保に対する嘆願書が出されています。

嘆願書の要望としましては、学級担任については教頭ではなく、教諭を確保してほしい、つまりは教職員定員を1人増員してほしいというものでありました。

教育長としては、保護者の不安は理解しながらも、人事に関する任免は県教育委員会の人事制度のことであり、市の教育長としては、対応できない旨を説明したところです。

また、PTAの方に対しては、冠岳小学校の統廃合については、今後話し合いの場を設けて行く旨、お伝えしたところです。

については、本日の総合教育会議においては、市長、教育委員会で確認していただきたい事項であります。冠岳小学校の統廃合の検討に入ることに、統廃合計画書の作成を行っていきたいと考えていますので、ご確認いただければと思います。

また、次に統廃合計画を提示し、校区内の意向を十分に把握しながら、慎重に進めるとされていますが、今後、統廃合計画を作成するにあたり、統廃合の時期をいつにするか、ということが重要になると思います。最終的には、地元と協議を進める中で、見直す必要も出てくることもあるかと思いますが、目標を示して協議を進めると考えていますので、この点についても、ご協議いただきたいと思います。

本日ご協議いただいた内容については、改めて教育委員会でご審議いただき、必要に応じて手続き等は対応していきますので、ご協議をお願いいたします。

田畑市長

只今、事務局から説明がありましたが、これまで私としましては、小学校は地域の活力の源であるとの思いで、特認校制度などをはじめ、地域の活性化、定住化に取り組み、学校統廃合はしてまいりませんでした。子どもの声が聞こえなくなると、地域は寂れるという思いで地域の皆さんのご協力をいただきながら、統廃合はしてきませんでした。

しかしながら、少子化が進む中、やはり主役は子どもたちですから、最低限の、最低限の教育力を維持するための基準が必要である、との判断から、平成28年2月の総合教育会議におきまして、学校統廃合の検討基準について教育委員会の皆さんと協議を行い、市の方針として共有させていただいたところでもあります。

この度、冠岳小学校がこの基準に該当することになる状況であります。私としましては、残念な思いではありますが、将来的にも子どもがいない状況が続くことが見込まれる以上、学校の統廃合もやむを得ないと考えているところであります。

なお、今後、統廃合計画を作成して、地域や保護者の方々との協議を行っていくこととなりますが、統廃合の時期について教育委員会の皆様のご意見を伺いたしたいと思います。

教育的見地からすれば、少しでも早く統廃合したほうが良いという思いもありますが、地域にとって「突然学校がなくなる」ということは、戸惑いも大きく、地域活動に与える影響も非常に大きいと考えております。

	<p>私としましては、地元の方々との協議の状況次第ではありますが、まずは、現在在籍している地元の子どもさんが卒業する平成 32 年度末をもってひとつの区切りとしてはどうかと、考えているところであります。教育委員の皆さんのご意見をお聞かせください。</p>
徳重委員	<p>なかなか難しいことで、簡単には言えないですが、32 年度末ということは、2 年先、とお考えですか。</p>
田畑市長	<p>そうなりますね。</p>
徳重委員	<p>ということは、来年度の新 5 年生が卒業するまでですね。</p>
木下課長	<p>補足しますが、地元が 3 人とありますが、このうち新 5 年生が元々冠岳に住んでいる方で、新 4 年生は教頭先生のお子さんで、実際の地元の子どもは新 5 年生となります。32 年度末ということは地元の 2 人が卒業するまで、ということになります。</p> <p>ただ、5 歳未満の 1 人は、住民票はありますが、冠岳にはいないということから、32 年度で地元の子どもが卒業すると、その後は地元がいなくなるということになります。</p>
富永委員	<p>統合計画案を作成するのは、地元に対して説明する前なのか、地元の意見を聞いたあとなのか、どうなんですか。</p>
木下課長	<p>基準に該当したら、まず、統合計画案を作成し、その案を地元へ提示して意向を聞くこととなりますので、細かいことではなく、どこと統廃合するのかとか、交通手段などの課題を示しながら、いつを目途にするかなど、ある程度、市、市教委としての方向性を示した中で、地元との協議に入りたいと思います。最終的には地元との協議になると思います。</p> <p>まず最初に、地元へ説明に入る骨組みの案を作るときに統廃合する方向でいきたいということ、じゃあ統廃合は何時かということなど、それぞれこの場で確認をいただく中で、統合計画案を教育委員会にもお諮りしながら確認していただいて、地元との協議に入っていきたいと思います。</p> <p>最終的には、地元との協議の調整次第で統廃合をするのか、するとすればいつか、など市長とも協議しながら条例などの手続きに入っていくことになるかと考えていますので、いつぐらいということをお今日の会でご協議いただければと思います。</p>
有村教育長	<p>そのようなことで、市長からは 32 年度末で統合を、という提案です。</p>

田畑市長	<p>教育力を維持できる状況を割り込んだわけですよね。だから、やむを得ないので32年度末を目途に統廃合を考える方向で進めたい、ということです。やはり、その学年に応じた教育が受けられなければならないと思います。</p>
有村教育長	<p>こうなると、学校が学校としての体を成さなくなります。あちこちにひずみが出てくると思います。教職員配置もですが、市長が言われる教育力、教育成果が期待できないと。非常にハンデを負うこととなりますので、統廃合止む無しということかと思えます。</p> <p>先ほどからあるように、2年後には地元がゼロになりますので、その次の年は、教頭も転勤の対象となるので、特認校生が2名だけ残ることになります。</p> <p>説明がありますように32年度末をもって、という案が出されていますので、教育委員会で検討していくことでお願いしたいと思います。</p>
富永委員	<p>学区の設定は、地元の方々に選択権があるんですか。山を越えたら川上ですよね。こちらは生福ですよね。</p>
木下課長	<p>地元との協議もですが、まずは教育委員会で検討し、最終的には市長の了解を得てということになります。冠岳小と川上小というのも1つの選択肢かと思いますが、今までの歴史的なつながりからすると生福と冠岳、生冠中学校区とのつながりとなりますので、そのような具体的なことも示して、統合計画案の骨子案を定例教育委員会に示して地元との細かい作業に入っていくと、考えています。</p>
田畑市長	<p>なんとか小学校は守りたいですが、子どもがいなくなるとどうしようもないですよね。1人、2人しかいないような状況になると。</p> <p>市町村合併をして、統廃合を進めてこなかったところは、本市だけだと思います。</p>
富永委員	<p>話を進めるにあたっては、市も地域の振興に手を入れて、いろんなことが考えられると思いますので、冠岳地域を衰退させることのないようにお願いしたいと思います。</p>
田畑市長	<p>冠岳文化芸術村構想も案がまとまったところですので、進めてまいりたいと思います。</p> <p>ほかにありませんか。</p> <p>それでは、今、皆さんから意見が出ましたとおり、在籍する地元の児童がいなくなる状況を見まして、地元とも協議しますが、32年度末をもって統合する方向で検討を進めていきたいと思っています。</p>

<p>委 員</p> <p>田畑市長</p>	<p>そして、地域の皆さんとも十分協議をしていきたいと思いますので、考え方を確認していただきたいと思います。よろしいでしょうか。</p> <p>はい。</p> <p>それでは、ご異議がありませんので、そのような形で進めていきたいと思いますので、ご了承願います。</p> <p>協議事項は以上ですが、その他について何かありませんか。</p> <p>(「ありません。」)</p> <p>なければ、以上で平成 30 年度第 2 回教育総合会議を終わります。</p> <p>(午後 2 時 30 分)</p>
------------------------	--